

実践報告書

令和4年度「大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築」

学びを深めるハイフレックス型 「大学で学ぼう」への転換

静岡大学教育学部特別支援教育（山元研究室）

静岡県障害者就労研究会

目次

I 本研究の要旨

II 本事業が目指す生涯学習のコンセプト

III 実践報告

1. 「本物」「静岡のこと・もの・ひと」「生活年齢」を意識した教材開発

2. ハイフレックス型を目指した生涯学習の実践

(1) 大学で学ぼう

第1回大学で学ぼう 令和4年7月17日実施

第2回大学で学ぼう 令和4年10月29日実施

第3回大学で学ぼう 令和4年12月11日実施

(2) 特例子会社での実践

実践1 「生きる」をテーマとしたセルフケアの実践
「ドキドキしたときはどうする？」

実践2 「学ぶ」をテーマにした英語に関する実践
「英語で買い物をしよう」

(3) 特別支援学校分校での実践

実践1 「学ぶ」をテーマにした英語に関する実践
「英語で買い物をしよう」

IV 運営協議会報告

第1回運営協議会 令和4年7月22日実施

第2回運営協議会 令和4年12月6日実施

第3回運営協議会 令和4年2月15日実施

V 調査報告

1. 特例子会社で働く成人の知的障害者の生涯学習のニーズ

2. 特例子会社で働く成人の知的障害者を支援する職員からみた生涯学習のニーズ

VI 本事業に関するまとめ

あとがき

本事業の分担・実践報告書の執筆分担・動画作成担当者及び協力者

I 本事業の要旨

本事業は、令和4年度「大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築」の委託事業として、これまで静岡大学と静岡県障害者就労研究会とが協働して実施してきた知的障害者を対象とした生涯学習「大学で学ぼう」を基盤として、学び方や参加の仕方をフレキシブルに選び主体的に参画できる「学びを深めるハイフレックス型「大学で学ぼう」への転換を目指した事業である。

本事業の目標は、①一人一人の状況に応じた参加方法（対面、オンデマンド、ハイフレックス型）の開発、②生涯学習に関する動画教材コンテンツの開発、③就学段階からの「大学で学ぼう」（生涯学習）への「接続」と「継続」、である。

本事業の成果は、動画教材の開発、動画教材を活用した授業形態の開発、新しい連携の在り方の創出である。

動画教材の開発としては、「本物であること」「静岡のひと・もの・ことを扱っていること」「生活年齢を踏まえていること」を大切な柱として、「生きる」「暮らす」「学ぶ」をテーマに18本の動画教材を開発した。「生きる」では、明日も元気過ごすためのセルフケアに注目をし、心と身体の不調に気づき自分でケアできる方法を理学療法士に助言を受けながらストレッチを提案する教材を開発した。「暮らす」では、「旬彩旬消」に注目をし、地元の食材について「旬」や「調理方法」について学ぶ教材を開発した。「学ぶ」では、防災教育、SDGs、英会話を題材として、学生を中心に取材をし、知的障害のある方々が身近な問題としてとらえ、自分ごととして考えることができるように構成を工夫し動画を作成した。

動画教材を活用した授業形態として、事前動画の配信、授業での動画教材の活用、振り返りとしての動画配とを活用した、誰でもどこからでもアクセス可能なハイフレックス型を実践した。動画教材を活用した授業実践（大学で学ぼう、特例子会社でのキャリア教育としての研修、特別支援学校分校での授業）では、平均して「動画を活用したことによって、学びやすかった」95.4%と回答し、「授業の内容がよく分かった」91.8%と回答していることから、動画視聴や動画活用をした授業形態は、一定の評価をすることができると思う。

課題としては、Wi-Fi等の環境面の課題、知的障害者の生涯学習の意義に関する社会的認知の低さがあげられる。調査ではYouTube等の動画視聴を90%の人が利用していることが分かった。しかし、オンデマンド型、オンライン型の授業を活用するためには、Wi-Fi環境等で不十分な環境の利用者も多かった。また、携帯やタブレットを使う時間が制限されている人も多く、知的障害者が自由にオンラインにアクセスして、学びたいものを選び視聴できる環境は整っているとはいいがたかった。今後、知的障害者にも自由にオンラインにアクセスできる環境を整え、情報へのアクセシビリティを確保していく必要があると考える。知的障害者の生涯学習の意義については、知的障害者自身が期待する内容に反し、障害者に関わる人が考える知的障害者のニーズは、生活スキルの実用的な内容が多かった。もちろん、知的障害者にとって「今」の生活には実用的な内容が大切であるが、加えて、健常の人達と同様に少し長い目で見た将来に必要なこと、心を満たしてくれることなども生涯学習として補償されるべきではないかと考えた。

II 本事業が目指す生涯学習のコンセプト

(1) 事業に至る背景と本事業が目指す生涯学習のコンセプト

これまで静岡大学教育学部特別支援教育山元研究室と静岡県障害者就労研究会が協働して、知的障害者のための生涯学習「大学で学ぼう」を実施してきた。「大学で学ぼう」は知的障害者の生涯学習として定着してきたという成果もある一方で、固定化する参加者、新規の参加者の減少、コロナ禍での対面実施の難しさ、付き添い者の確保の難しさ等、課題も顕在化してきている。

そこで、本事業が目指す生涯学習は、知的障害者が、生涯に渡って、自由に学び豊かに生きることができる機会、教材、内容を開発することとした。自由に学ぶことができるというのは、参加する「時間」「場所」「方法」「内容」等を選択することができることとした。オンデマンド型を開発することで「時間」「場所」を選択することができる、オンライン型にすることで「場所」「方法」を選択することができる一方で、対面型も実施することで「友達に会いたい」「大学で学びたい」「直接会って、話したい」「一人では分からなかったけど、友達と学んだら分かった」等の要望にも応えることができると考えた。図1は、本事業を構想図として示したものである。

(2) 本事業の目標

- ①一人一人の状況に応じた参加方法（対面、オンデマンド、ハイフレックス型）の開発
- ②生涯学習に関する動画教材コンテンツの開発
- ③就学段階からの「大学で学ぼう」（生涯学習）への「接続」と「継続」

(3) 本事業の連携・協働体制

本事業に係る分担及び連携・協働体制については、図1の通りである。

教材作成は主に、山元研究室で担当し、動画配信・管理等は、静岡県障害者就労研究会で行うものとする。

また、授業連携については、静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、特例子会社、福祉事業所、静岡県手をつなぐ育成会等と連携し実施することとする。

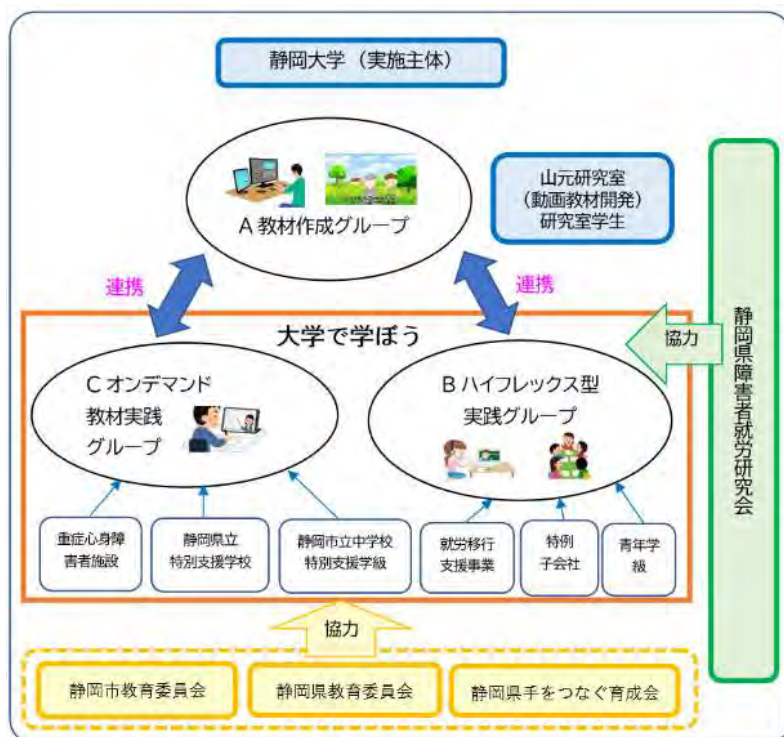


図1 事業に関する連携・協働体制

Ⅲ 実践報告

1. 「本物」「静岡のこと・もの・ひと」「生活年齢」を意識した教材開発

本事業で開発する教材のコンセプトは、「本物」であることを重視した。とかく、知的障害者や重度の障害のある方の教材は、幼かったり、本人のニーズに適応しなかったりする教材が散見される。本事業では、まず、「本物」であることを重視した。

次に、「静岡のこと・もの・ひと」を題材・教材とし、参加者の身近なテーマとして感じられ、それぞれの生活に学びが拡張していくことを目指している。

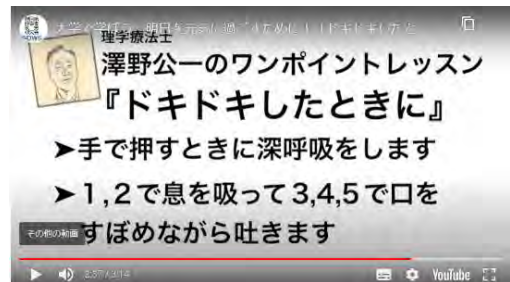
そして、「生活年齢」に見合った内容であることを大切にし、本人の自尊心を尊重し、本人が学ぶ価値があると自覚できる内容を取り上げた。

以下、本事業で開発した教材の一覧である（表1）。

表1. 動画教材一覧

1	<p>【セルフケア】2022/7 ワンポイント心理学「お互いを知ろう「自己紹介」」 https://shizuoka-dws.com/longlife/live/379.html</p>
2	<p>【セルフケア】大学で学ぼう 明日を元気に過ごすために！「イライラしたとき」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="323 920 802 1182"> </div> <div data-bbox="820 920 1278 1182"> </div> </div> <p>https://shizuoka-dws.com/longlife/live/347.html</p>
3	<p>【セルフケア】大学で学ぼう 明日を元気に過ごすために！「身体の疲れを感じたとき」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="331 1308 802 1570"> </div> <div data-bbox="842 1308 1305 1570"> </div> </div> <p>https://shizuoka-dws.com/longlife/live/345.html</p>
4	<p>【セルフケア】大学で学ぼう 明日を元気に過ごすために！「ぼうとしたとき」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="323 1688 810 1951"> </div> <div data-bbox="842 1688 1313 1951"> </div> </div> <p>https://shizuoka-dws.com/longlife/live/342.html</p>

5 【セルフケア】大学で学ぼう 明日を元気に過ごすために！「ドキドキしたとき」



<https://shizuoka-dws.com/longlife/live/339.html>

6 【旬彩旬消】2022/7 大学で学ぼう「旬産旬消」



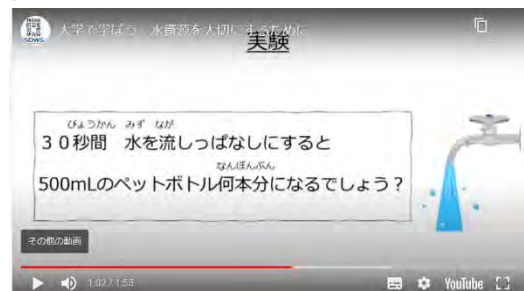
<https://shizuoka-dws.com/longlife/live/359.html>

7 【旬彩旬消】大学で学ぼう 地産地消（授業編）



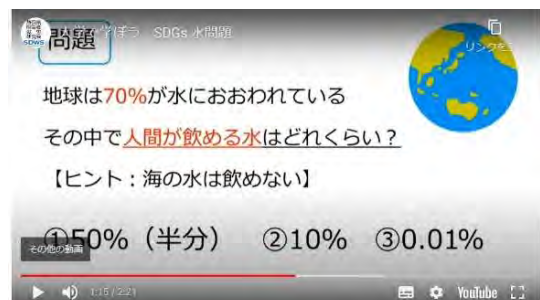
<https://shizuoka-dws.com/longlife/live/361.html>

8 【SDGs -水-】大学で学ぼう 水資源を大切にするために



<https://shizuoka-dws.com/longlife/live/361.html>

9 【SDGs -水-】大学で学ぼう SDGs 水問題



<https://shizuoka-dws.com/longlife/study-longlife/375.html>

10 【防災について -水災害編-】 大学で学ぼう 身の回りの災害について

<https://shizuoka-dws.com/longlife/study-longlife/373.html>

11 防災について -水災害編-】 大学で学ぼう 大雨について

<https://shizuoka-dws.com/longlife/study-longlife/370.html>

12 【防災について -水災害編-】 大学で学ぼう 津波について

<https://shizuoka-dws.com/longlife/study-longlife/367.html>

13 【防災について -水災害編-】 大学で学ぼう 防災について

<https://shizuoka-dws.com/longlife/study-longlife/365.html>

14 【防災について -水災害編-】 大学で学ぼう 避難所について

<https://shizuoka-dws.com/longlife/study-longlife/363.html>

15	<p>【英語を学ぼう】大学で学ぼう 英語にチャレンジ 買い物編一</p>  <p>https://shizuoka-dws.com/longlife/study-longlife/349.html</p>
16	<p>【英語を学ぼう】大学で学ぼう 英語にチャレンジ 「自己紹介編」</p>  <p>https://shizuoka-dws.com/longlife/study-longlife/351.html</p>
17	<p>【英語を学ぼう】大学で学ぼう アメリカ旅行に行こう (道案内編)</p>  <p>https://shizuoka-dws.com/longlife/study-longlife/353.html</p>
18	<p>【英語を学ぼう】大学で学ぼう アメリカ旅行に行こう (空港編)</p>  <p>https://shizuoka-dws.com/longlife/study-longlife/355.html</p>

2. ハイフレックス型を目指した生涯学習の実践

(1) 大学で学ぼう

① 2022 年度第 1 回大学で学ぼう

<https://shizuoka-dws.com/events/297.html>

日 時 2022 年7月 17 日(日)

場 所 静岡大学大学会館

内 容 アイスブレイク『○、×クイズ』
講義1『自己紹介・4コマ自己紹介』
講義2『旬産旬消』『地産地消』

☆題材について

a. アイスブレイク「これ知っている○×クイズ」

身近なものに関して、○、×という2択で考えた。グループで話し合うあるいは正解、不正解などで「嬉しい」「残念」などを共有した。取り上げるクイズは、季節に関するものにした。

b. 講義1 『自己紹介・4コマ自己紹介』

心理学について、活動を通して学ぶ講義である。実際にやってみて感じたことを話し合い、その活動の意味について学んだ。

本年度は、「自己紹介」に視点をあて、自分のことを詳しく知る、詳しく語ることができることが目標である。参加者の中には、コミュニケーションを苦手としている受講生や、おしゃべりが好きなのですがまとまって上手く伝えられない受講生がいる。そこで今年度は、自己紹介に焦点をあてて、自分のことを考える、伝える機会を設定し、自己開示について理解を促した。

本年度最初の講義では、4マス自己紹介を取り上げた。

【事前動画】

4マス自己紹介の作り方を具体的に伝え、自宅で準備して持参できるようにした。

c. 講義2『地産地消』

地域には、食文化があり、地域の食材や作り方、食べ方など学ぶべきことがたくさんある。受講生には、身近な内容で、知っている、食べたことがあるなど身近である。これまでの講座で取り上げた「桜エビ」に関する講座についても、事後アンケートとても満足度が高かった講座の一つである。今回は、料理の観点から、「わさび」「桜エビ」を取り上げた。

【事前動画】

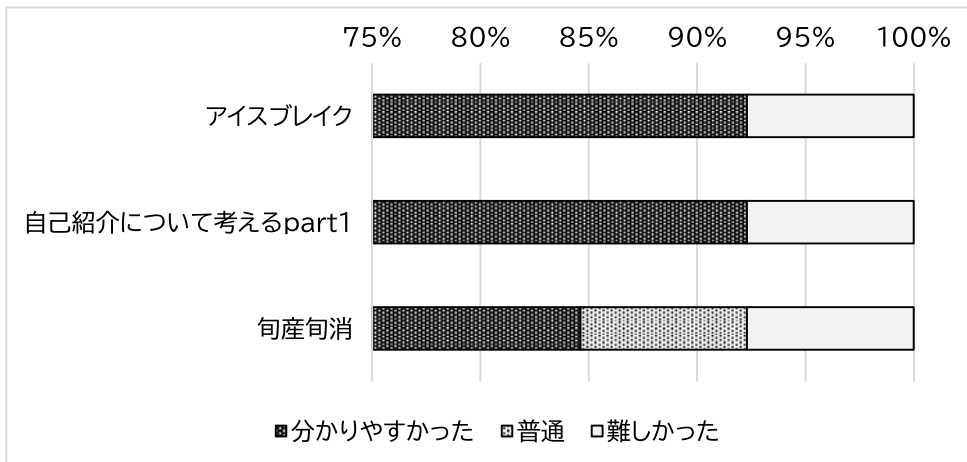
『旬産旬消』についての事前動画を作成し、食の旬について考えることにした。またトマトを題材にして旬の食材、美味しい食べ方などを考える動画にした。

☆講義

時間	講義内容・活動	留意事項
15分	<p>アイスブレイク 「これ知っている〇×クイズ」 第1問 冷やし中華は、中国から伝わった？ 第2問 蚊取り線香の渦巻きは蛇をヒントに作られた？ 第3問 朝顔の花は、つるの上の方から順番に咲いていく？ 第4問 猛暑日とは気温が35℃を超えた日のことである？ 第5問 令和4年になって静岡市の最高気温が39℃を超えたことがある？ 第6問 暑い夏はこまめに水を飲んだ方が良い？</p>	<p>近くの人と話し合うように促す。 〇×の札を配る</p> <p>30℃について</p> <p>浜松市を話題にする</p>
30分	<p>講義1 「4マス自己紹介」 学生の見本 1人目 ぼそぼそ聞こえにくい自己紹介 2人目 はきはきした自己紹介 どうしてかの理由を発表する 印象形成について ① 外見・雰囲気 ② 表情、自然、声、話し方、姿勢、しぐさ ③ 話の内容 4コマ自己紹介を使って学生の見本 4コマを使ってはきはきと自己紹介をする</p> <p>2人ペアでやってみよう！ ペアを変えて繰り返す ミニ講話 周囲の人に自分のことを伝えること(社会人として必要な力) 自己開示について 心を開いて、自分のことを話すと相手自身のことを話そうとする</p>	<p>違いについて考える</p> <p>良かったと思う方に手をあげる 理由を考えさせる 出会いについて考える 色々な様子があることを知らせる。</p> <p>印象が変わったことを確認する。 自分なりに工夫することを知らせる 1人2分</p> <p>会話の例で考えられるようにする</p>
75分	<p>講義2 自己紹介 料理研究家とは？ フードコーディネーターとは？</p>	<p>新聞、テレビ番組などの記事で考えさせる</p>

地産地消しくみについて考える 地産地消の良さについて考える 地元の野菜海産物について 静岡市の資源について わさびについて学ぶ 桜エビについて学ぶ わさびと桜エビの加工品について わさびと桜エビの料理について まとめ 地産を食べよう、旬を食べよう	身近な地元で考える 顔の見える生産者から考える どんなものがあるか意見を 出す 静岡鉄道のレインボーカ ラーを例にする 歴史、世界とのつながり 桜エビの旬について
---	--

☆アンケート



講義内容の分かりやすさ(第1回大学で学ぼう)

自由記述

アイスブレイク	<ul style="list-style-type: none"> ・面白かった(3) ・楽しかった(2) ・勉強になった ・〇×クイズが楽しかった ・いろいろお話ができた
自己紹介について考える part1	<ul style="list-style-type: none"> ・すごく楽しかった ・4つの項目があって分かりやすかった ・4つの項目から自己紹介を考えたのがよかった ・自己紹介ができてよかった ・みんな一人一人の趣味が違った ・積極的に話すことができてよかった ・うまく言えてよかった
旬産旬消	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強になった(4) ・いろいろな食材があるのだなあと思った(3) ・「わさび」と「桜エビ」の話を聞いて、とてもよかった

	・初めての食材がたくさんあった。今度、食べてみようと思う ・お話が長くなってしまったので、眠くなってしまった
--	---

②2022 年度第2回大学で学ぼう

<https://shizuoka-dws.com/events/314.html>

日 時 2022年10月29日(土)

場 所 静岡大学大学会館

内 容 アイスブレイク『山手線ゲーム』

講義1『自己紹介・隣の隣、ネームコーリング効果』

講義2『英語にチャレンジ・買い物をしよう』

☆題材について

a. アイスブレイク『山手線ゲーム』

山手線ゲームは、お題を決めて合致している単語を順番に言い、思いつかなくなった者や他者の言った単語を言ってしまったら負けというゲームである。今回は、負けというより、時間をかけてつながっていくことを大事にすることでアイスブレイクになると考えた。

また講義1の講師と連携し、次の課題につながるようにした。

b. 講義1『自己紹介・隣の隣、ネームコーリング効果』

よくアイスブレイクで使われる隣の隣を使って、相手の名前を呼ぶ、自分の名前を言うというゲームを行った。覚えること、話すことが苦手な受講生もいるので、皆で思い出すように支え合う雰囲気を作った。まとめに「名前を呼ばれるとどんな気持ちか」ということを考えることによって、ネームコーリング効果についての理解を促した。

c. 講義2『英語にチャレンジ・買い物をしよう』

海外についての学習は、韓国のこと、イタリアのことなど、旅行者の方、美術の専門家に講義を受けたことがある。知らないことを知ったという喜びと海外の言葉にも興味を示した受講生も多かったこともあり、今回は、大学生に英語に関する講義を行うことにした。

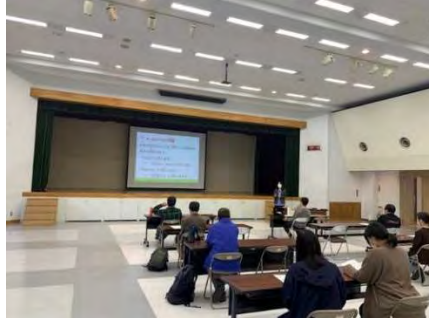
【事前動画】

買い物に行く動画を作成した。皆がロールプレイでハンバーガーショップでの買い物をした。ハンバーガーとポテトチップ、オレンジジュースを注文して、金額を支払う動画である。一緒に学んでいる大学生が動画で説明をした。動画で、繰り返し学んで、授業を楽しみにすることに期待した。

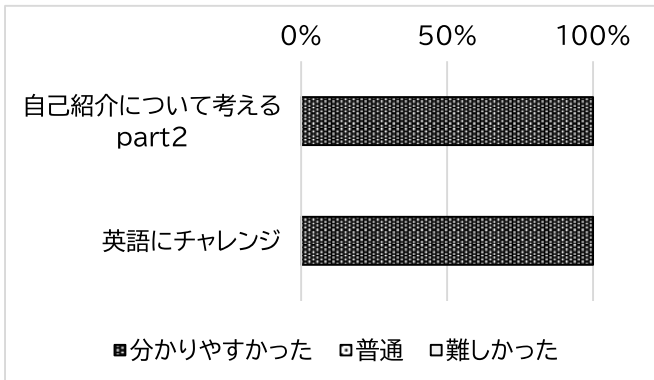
☆講義計画

時間	講義内容・活動	留意事項
15分	<p>アイスブレイク 「山手線ゲーム」 学生が前に出てゲームの例をやってみる テーマ 駅名 グループに分かれてやってみよう！ テーマ1動物 テーマ2秋の食べ物 秋の食べ物でどんなものが出たかグループで発表する</p>	<p>学生の例を見る 確認し理解を促す まずは、リズムに合わなくても動物名を言うというところに重きを置く 同じものが出たら、もう一度と何度も楽しむ</p>
30分	<p>講義1 「となりのとなり」 学生がやり方の見本を見せる グループでやってみよう 「自己紹介を行う」 その時に好きなことを伝えます。 反対周りをやってみよう！</p> <p>ミニ講話 ネームコーリング効果について 名前を呼んで挨拶、名前なしであいさつ あなたは・・・、○○さんは・・・ まとめ ネームコーリング効果 名前を呼ぶ 認める大切にしてくれる→安心へ</p>	<p>自己紹介 ○○が好きな△△です。 間違える、確認するなど アイスブレイクのグループで行う 好きなこと、名前を復唱して強調する。 詰まったら、好きなこと名前を確認し、続けるようにする できたら拍手などで称賛 覚えた！できた！を確認 意見交換する</p> <p>安心感へつながることを確認</p>
50分	<p>講義2 「英語にチャレンジ・買い物をしよう」 食べ物の英語を確認する ハンバーガー フライドポテト オレンジジュース 発音してみよう！</p> <p>「模擬買い物をしよう」</p>	<p>動画を見て学べることを確認する</p> <p>フライドポテトは、和製英語であることを知らせる 他の食べ物も発音の違いに気付かせる</p>

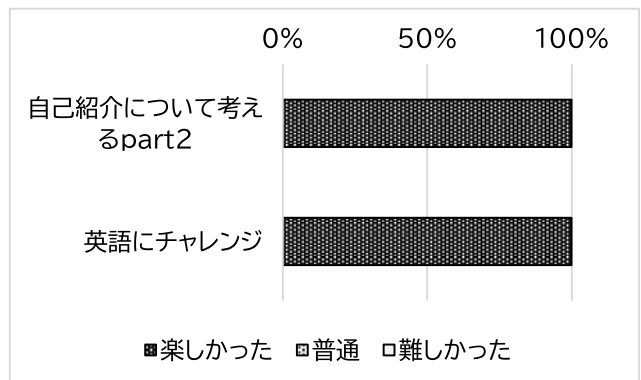
	<p>動画で確認！ 学生の見本を見よう 発音に気を付けて練習しよう！ カードを使って隣の人とやってみよう 交代してやってみよう まとめ・今日学んだこと 学習についてアンケート書こう</p>	<p>自主学習でもできることを伝える 主体的にできるように時間をとる</p>
--	--	---



☆アンケート



講義内容の分かりやすさ(第2回大学で学ぼう)



講義内容の楽しさ(第2回大学で学ぼう)

自由記述

<p>自己紹介について考える part2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった ・隣の人とのゲームが楽しかった ・覚えるのが大変だった ・大学生とまた勉強したいです ・何とか覚えることができた。普段やっていないことだったので難しかった
<p>英語にチャレンジ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の勉強になった ・みんなとゲームをして楽しく交流ができた ・英語も話せた ・動画でフライドポテトを買う時の英語の発音練習をしてから、カ

	ードゲームで店員と客になってのやりとりを学んだことがよかった
--	--------------------------------

③ 2022 年度第3回大学で学ぼう

<https://shizuoka-dws.com/events/319.html>

日 時 2022年12月11日(日)

場 所 静岡大学大学会館

内 容 アイスブレイク『似顔絵を描き合おう』

講義1『自己紹介・私は〇〇です 20答法 自己概念』

講義2『英語にチャレンジ2・自己紹介』

講義3『明日も元気に過ごすために』

☆題材について

a.アイスブレイク『似顔絵を描き合おう』

隣に座った大学生とペアで似顔絵を描き合った。相手のことをよく見て似顔絵を書く、そして交換し合うことで、会話も弾むと考えた。

b.講義1『自己紹介・私は〇〇です 20答法 自己概念』

今まで自己紹介について学んできたことを確認し、自分のことを考える方法として、「自分について 20 個の内容を紙に書きだす」ことに挑戦した。自分ことをたくさん考えていくことで、自分が自分に対して持っているイメージ(自己概念)を理解していった。自分のことを知った上で、人間関係を考えていく機会にできると考えた。

c.講義2『英語にチャレンジ2・自己紹介』

事前動画を使って挨拶、自己紹介について、意味を確認したり、発音の練習をしたりした。動画で主体的練習できることも強調して、今後の家庭での学びにつなげたいと考えた。自己紹介については、自分に置き換えて、ペアで練習した。自己紹介については、今年度、3回通したので、英語でも取り組みやすいと考えた。

【事前動画】

挨拶のことや自己紹介のことなどをクイズ形式で考えたり、自分で学びを深めることができたりするように工夫した。

講義3『明日も元気に過ごすために』

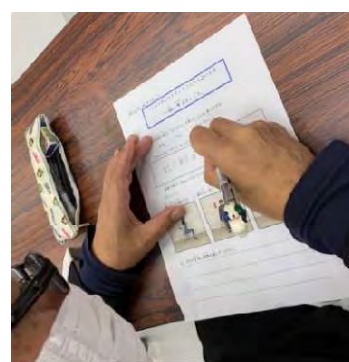
大学の中を歩くウォーキング講座等、健康に関する講座は、とても人気がある。今年度は、「イ

ライラしたとき」など具体的に場面を限定し、自分なりの対処法を考える設定とした。そして発表し合うことで新たな気付きや簡単にできるストレッチなどを学ぶ機会にした。

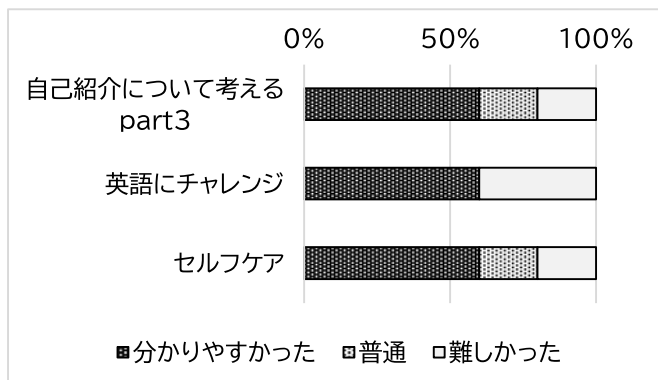
☆講義計画

時間	講義内容・活動	留意事項
15分	アイスブレイク 「似顔絵を描き合おう」 ペアを作って、似顔絵を描くことを説明する どちらが先に描くか決めて絵を描く 今度は交代して描く 絵を交換する	A4の紙を配る 感想など言葉を添えるように話す
30分	講義1 自己紹介・私は〇〇です 20答法 自分ことについてたくさん書く 自分のことを知ることが人間関係の一步であることを知らせる。 ミニ講話 自己概念と何かを知る 自分のことを知ること、自分のできることから取り組むことを知る	ワークシートを配る なかなか書き始めることができない受講生には、口頭で幾つか応えてもらいきっかけを作る 机間巡回し、確認し、「もっとある？」などと、たくさん書くことをうながす 得意 ⇔ 不得意 調書 ⇔ 短所 強み ⇔ 弱み などで考えさせる 例をあげて考えさせる
40分	講義2 「英語にチャレンジ2・自己紹介」 事前動画を確認する クイズについて確認する ・「こんにちは」「おはよう」「こんばんは」について ・私の名前は Apple です。 ・Apple と呼んでね。 ・Apple が好きです。 ・新年おめでとう	動画を見て学べることを確認する クイズに出てきた英語を確認する

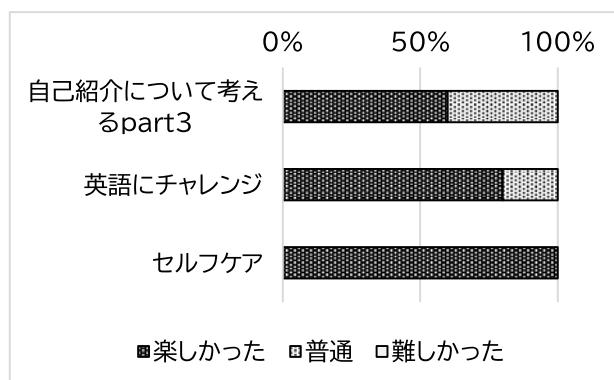
	<ul style="list-style-type: none"> ・よろしくね ・調子はどう？ 「英語で自己紹介をしよう」 ・こんにちは ・私の名前は〇〇です <p>プリントを使って自己紹介をする ペアで行う みんなの前でやってみる</p>	<p>復唱する ローマ字表を配布する 自分の名前を書く 自己紹介の紙に書き込む</p>
40分	<p>講義3 「明日も元気に過ごすために」 事前動画を確認する 「イライラしたとき」どんなことをしているかを書き出す 発表する ストレッチをしてみよう もう1回やってみよう 別のストレッチもやってみよう 感想を発表しよう 他のストレッチの紹介</p>	<p>音楽とか体操とか出た場合には具体的な事柄を引き出す</p> <p>ポイント説明しながらストレッチを行う</p> <p>「疲れたとき」「ぼうっとしたとき」「疲れた時」などのストレッチも配信を知らせ、参考にすることを促す</p>



☆アンケート



講義内容の分かりやすさ(第2回大学で学ぼう)



講義内容の楽しさ(第2回大学で学ぼう)

自由記述

自己紹介について考える	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった ・20個は大変だった ・もっと話したかった ・人に伝えることが楽しくできた ・難しかった ・好きなことを知ることができてよかった
英語にチャレンジ	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすかったし、楽しかった(2) ・英語で自己紹介するのは、難しかった ・本屋さんや服屋さんでの買い物の仕方を知りたい ・楽しくできた
セルフケア	<ul style="list-style-type: none"> ・なるほどと思った ・面白かった ・楽しかった(2) ・いろいろな呼吸法を知りたい ・椅子にすわってのストレッチを知ることができた(2)

(2)特例子会社との協働による生涯学習

<実践1>「生きる」をテーマとしたセルフケアの実践

「ドキドキしたときはどうする？

日時 2022年12月20日

参加者 特例子会社 A 22人

☆内容

① アイスブレイク

「他己紹介をしよう」

- ・ペアになり、相手のことをインタビューしてよく知る
- ・次に、相手をどのように紹介しようか考える
- ・ペアで参加者の前に立ち、相手を紹介する

② 動画教材「ドキドキしたとき」視聴

会場で動画の視聴を実施した。今回は事前動画の配信は、個々の Wi-Fi 環境が異なったり、告知から授業までの時間が短かったりしたため、動画視聴は全員で授業前に実施した。

③ 対面授業の実施

授業計画は以下の通りである。

特例子会社 A 授業実践 授業案		
		授業者 安藤綺更
1. 日時	令和4年12月13日(火) 14時15分から15時45分	
2. 単元名	「明日も元気に過ごすために」 ードキドキしたとき、どうする？ー	
3. 目標	・自らの日常生活を振り返り、ドキドキして困った場面を考え、仲間と共有する ・ペアとセルフケア方法を教えあいながら実践する	
4. 展開		
時間	○主な活動内容 ・予想される参加者の表れ	●留意点
1. 導入 (45分)	○ アイスブレイク (他己紹介) ・恥ずかしい ・「好きなことは何ですか」 ○ 事前動画を視聴する。 ・配信された動画、見てきました。 ○ 日常生活でドキドキする場面を考える。 ・初めてのときにドキドキする ・人の前で発表するとき ○ ドキドキしたとき、どのように対処しているか、全体で共有する。 ・好きな音楽を聴くようにしている ・人に相談する	● 方法と手順をスライドで提示する ● 活動ペアをつくり、このあとの活動も円滑に進むようペアとの交流機会を確保する。 ● インターネットを使用できない方もいるので、事前配信動画を視聴する時間を設ける。 ● 日常生活や仕事をしている中で、緊張する場면을具体的に想像できるようにする。 ● 緊張したときの対処法について、様々なアイデアがあると予想されるのでペアや全体で共有する。
2. 展開 (30分)	○ ドキドキを落ち着かせる方法を実践。 ・肩が痛い ・体がボカボカする ・家でもできそう ○ 今日学習したストレッチをどんなときに使うことができそうか考える。 ・苦手な作業の前 ・仕事の休憩時間	● PT さんによる動きのポイントを確認しながらストレッチの動きを実践する。 ● 「自分だったらこんなときに使う」と自らの生活と結びつけて考えることができるようにする。
3. まとめ (15分)	○ 本時の活動を振り返る	● ワークシートに記入する。

④ 参加者の評価

(抜粋)動画教材を活用した授業後における質問紙調査(意欲・理解度・汎用性)

質問	① 視聴した動画について	①	②	③	④
1	動画は学びやすかった	14人 (63.6%)	7人 (31.8%)	1人 (4.5%)	0人 (0%)
2	ストレッチのポイントが分かった	12人 (54.5%)	6人 (27.2%)	4人 (18.1%)	0人 (0%)
質問	② 視聴した動画の内容について	①	②	③	④
1	動画を見る前、面白そうな内容だと思った	5人 (22.7%)	11人 (50.0%)	6人 (27.2%)	0人 (0%)
2	ドキドキが生じる場面、は生活によくある	8人 (36.3%)	8人 (36.3%)	5人 (22.7%)	1人 (4.5%)
3	ドキドキが生じる場面は、働く場面によくある	6人 (27.2%)	10人 (45.4%)	5人 (22.7%)	0人 (0%)
4	ドキドキをコントロールできるようになりたい	9人 (40.9%)	10人 (45.4%)	3人 (13.6%)	0人 (0%)
5	ストレスを和らげる方法を知りたい	11人 (50.0%)	4人 (18.1%)	6人 (27.2%)	1人 (4.5%)
質問	③ 授業についての質問	①	②	③	④
1	授業に積極的に参加できた	10人 (45.4%)	10人 (45.4%)	1人 (4.5%)	1人 (4.5%)
2	授業の内容がよく分かった	17人 (77.2%)	3人 (13.6%)	1人 (4.5%)	1人 (4.5%)
3	授業の内容に満足している	13人 (59.0%)	7人 (31.8%)	2人 (9.0%)	0人 (0%)
4	これからも動画を使った授業を受けたい	14人 (63.6%)	6人 (27.2%)	2人 (9.0%)	0人 (0%)

① とても当てはまる ②当てはまる ③当てはまらない ④まったく当てはまらない

動画教材および動画教材を活用した授業についてのアンケート)

(ア) ストレッチについて	回答(自由記述より)
今日学習したストレッチを生活のどんな場面で使いたいと思うか	<ul style="list-style-type: none"> ・人前に出て話したり新しいことにチャレンジしたりする前 ・イライラ、ドキドキ、緊張したとき ・気持ちの切り替えのとき ・多くの人に見られる場面の前 ・仕事で疲れ帰ってきたとき・ゲームの休憩中 ・家でのお風呂上がり ・筋トレのあと
今日学習したストレッチを職場のどんな場面で使いたいと思うか	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキドキをおさえるとき ・多くの人に見られる場面の前 ・長時間同じ姿勢で作業したとき・仕事の合間 ・休憩時間 ・自分には効果がないと思ったので、自分にあったストレッチを探してみたい。

<実践2>「学ぶ」をテーマにした英語に関する実践

日時 2022年12月24日

参加者 特例子会社A 22人

☆内容

① アイスブレイク

「他己紹介をしよう」

ペアになり、相手のことをインタビューしてよく知る

次に、相手をどのように紹介しようか考える

ペアで参加者の前に立ち、相手を紹介する

② 動画教材「英語で買い物をしよう」視聴

会場で動画の視聴を実施した。今回は事前動画の配信は、個々の Wi-Fi 環境が異なったり、告知から授業までの時間が短かったりしたため、動画視聴は全員で授業前に実施した。

③ 授業内容

順番	概要	内容	
1	○表紙	・タイトル	
2	○学習内容確認		
3	○学習内容確認	○May I help you?1 はどんな意味でしょう。	
4		○May I help you?は何がお手伝いしましょうか(いらっしゃいませ)という意味があります。	
5		○Can I have a hamburger and French fries?はどんな意味でしょう	
6		○Can I have a hamburger and French fries?は、ハンバーガーとフライドポテトをくださいという意味があります。	
7		○Yes、はどんな意味でしょう。	
8		○Yes.は、はい。という意味があります。	
9		○買い物の様子を確認しましょう。	店： May I help you?
10			主： Yes, please.
11	Can I have a hamburger and French fries?		
12	店： Large or small French fries?		
13	主： Large please.		
14	店： Sure.		
15	店： Would you like some drinks?		
16	主： Oh, yes. Orange juice please.		
17	主： How much is it?		
18	店： It is 10 \$		
19	主： Ok.		
20		○表現確認終了	

1.本時の指導

(1) 本時の目標

買い物活動を通して、食べ物に関する単語や買い物をするために尋ねたり答えたりする表現を身につけることができる (知識及び技能)

(2) 本時の展開

学習内容	予想される子供の表現	指導の要点
導入	○挨拶 ・自己紹介 ・日本語で活動全体を説明し、見通しを持たせる。	・最初に挨拶を行う。
展開	○動画を見る (2分) ・主人公が何を買ったか、考えさせる。 ・買物の英語を聴き取るという見通しを持たせる。 ○食べ物の英単語を確認する。 1 初回は、repeat after me. 2 回目以降：ランダムにカードをさして確認。 ○2回目以降終了後、May I help-? 等の意味や答え方を確認して行う。 ○カードゲーム(英語カルタ) (1)カードを配る。 (2)英単語を聞き、英単語と同じイラストカードを取る。 (3)再度又はイラスト抜きで行う。 ○英語で買物してみよう！ ○買物の英語表現の動画をみて、真似をして行う。 ○買物のロールプレイングを行う。 ＜ロールプレイング＞ 場面設定：ハンバーガー店でお昼ご飯を買う。 (1)2人組を作り、お店と店員さんに分かれて行う。 (2)店員役は品物の商品を並べる。 (3)客役は店員役の所いき、買物をする。 (4)客役と店員役を交代して行う。 S1: May I help you? S2: Yes. Can I have ~?	●食べ物の単語は音近にある物にする。(例) <i>ハンバーガー</i> ●絵カードは、大文字と小文字の区別や形が似ている文字の区別が難しい場合があるため、見やすい活字体を使う。 ・ロールプレイングを行い、活動をイメージしやすくする。 ●机間巡視を行い、つまづいている児童がいれば、声をかける。 ●言葉で表現が難しい場合は、ジェスチャーや指差しなどで気持ちを表現できるようにする。 ●声量によっては教師の音声を真似ながら相手に伝える場合があるが、生徒の積極的な態度を育むことを大切にすること。 ●場面に適さない表現をした場合、適切な表現をさせることで気付かせるなど、生徒が表現しようとする意欲や自信を維持しながら活動を展開する。
まとめ	○プリントに取り組む ○単語と May I help-?の表現を確認する。	＜評価＞食べ物に関する単語や買い物をするための表現を身につけることができる (学習活動の様子/知識及び技能)

④ 授業評価

質問項目	回答			
	とても思う	そう思う	あまり思わない	思わない
・動画について				
動画は見やすかった(n=19)	9人(47.4%)	10人(52.6%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)
動画の音は聞こえた(音の聞こえ方)(n=19)	9人(47.4%)	9人(47.4%)	1人(5.3%)	0人(0.0%)
動画は短かった(n=19)	2人(10.5%)	6人(31.6%)	9人(47.4%)	2人(10.5%)
字幕(文字)は見やすかった(n=19)	8人(42.1%)	11人(57.9%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)
動画は学びやすかった(n=19)	10人(52.6%)	6人(31.6%)	2人(10.5%)	1人(5.3%)
家で動画をみた(n=19)	0人(0.0%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)	19人(100%)
・動画の内容について				
動画を見る前、面白そうな内容だと思った(n=19)	6人(31.6%)	7人(36.8%)	4人(21.1%)	2人(10.5%)
動画で英語を話す練習ができた(n=19)	6人(31.6%)	11人(57.9%)	2人(10.5%)	0人(0.0%)
英語を話せるようになりたい(n=19)	3人(15.8%)	8人(42.1%)	7人(36.8%)	1人(5.3%)

質問項目	回答			
	とても思う	そう思う	あまり思わない	思わない
・授業について				
これからも動画を使った授業を受けたい(n=19)	6人(31.6%)	9人(47.4%)	3人(15.8%)	1人(5.3%)
今日学習した英語はこれから使うことができる(n=19)	6人(31.6%)	6人(31.6%)	5人(26.3%)	2人(10.5%)
練習すれば、話すことができた(n=19)	7人(36.8%)	6人(31.6%)	4人(21.1%)	2人(10.5%)
これからも英語を学びたい(n=19)	4人(22.2%)	8人(44.4%)	4人(22.2%)	2人(11.1%)
英語を話せるようになりたい(n=19)	4人(21.1%)	7人(36.8%)	7人(36.8%)	1人(5.3%)
活動の時間は短い(n=19)	2人(10.5%)	4人(21.1%)	10人(52.6%)	3人(15.8%)
参加者と仲良く学ぶことができた(n=19)	8人(42.1%)	10人(52.6%)	1人(5.3%)	0人(0.0%)

(3)知的障害特別支援学校高等部分校での実践

「学ぶ」をテーマにした英語に関する実践

日時 2022年12月Y日

参加者 S県立特別支援学校F分校 19人

☆内容

①アイスブレイク

「他己紹介をしよう」

ペアになり、相手のことをインタビューしてよく知る

次に、相手をどのように紹介しようか考える

ペアで参加者の前に立ち、相手を紹介する

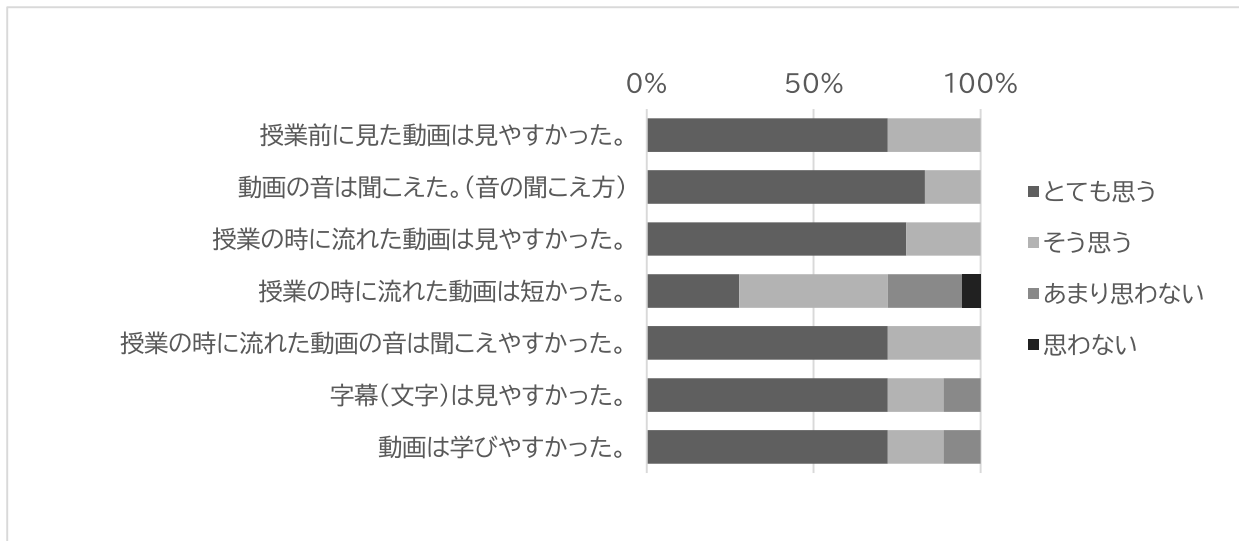
② 動画教材「英語で買い物をしよう」視聴

会場で動画の視聴を実施した。今回は事前動画の配信は、個々のWi-Fi環境が異なったり、告知から授業までの時間が短かったりしたため、動画視聴は全員で授業前に実施した。

③ 授業実践(特例子会社での実践2と同様)

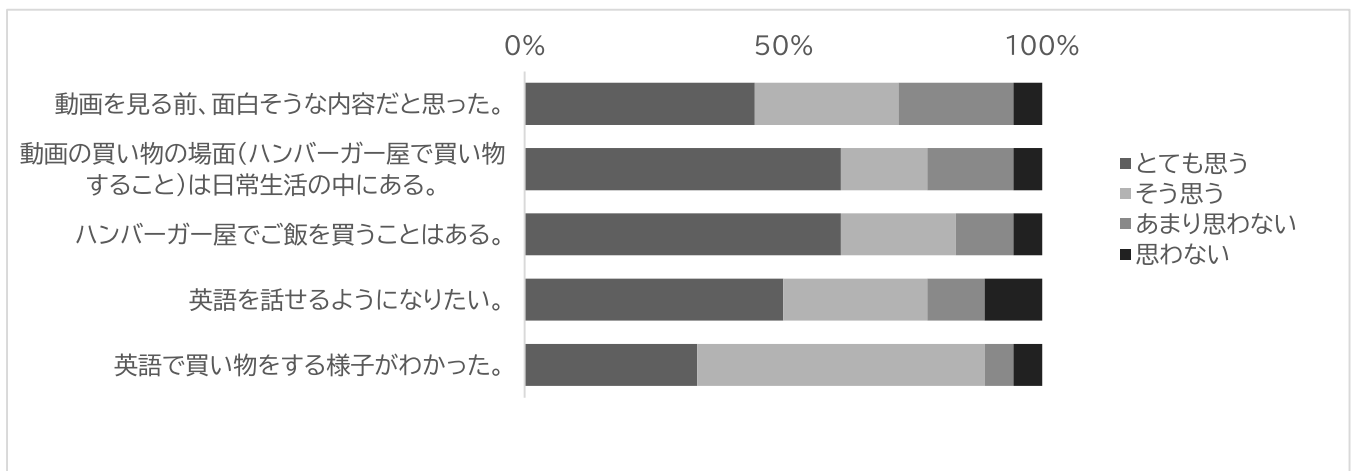
④ アンケート調査

<動画について>



「授業前に見た動画は見やすかった」という項目は「とても思う」72.2%(13名)、「そう思う」27.8%(5名)。「動画の音は聞こえた」という項目は「とても思う」83.3%、「そう思う」16.7%だった。授業の時に流れた動画は見やすかった」という項目は「とても思う」77.8%(15名)、「そう思う」22.2%(3名)だった。「授業の時に流れた動画は短かった。」という項目は「とても思う」27.8%(5名)「そう思う」44.4%(8名)「あまり思わない」22.2%(4名)「(思わない)」5.6%(1名)だった。「授業の時に流れた動画の音は聞こえやすかった。」(N=18)という項目は「とても思う」72.2%(13名)「そう思う」27.8%(5名)だった。「字幕(文字)は見やすかった。」という項目は「とても思う」72.2%(13名)「そう思う」16.7%(3名)「あまり思わない」11.1%(2名)だった。「動画は学びやすかった。」という項目は「とても思う」72.2%(13名)「そう思う」16.7%(3名)「あまり思わない」11.1%(2名)だった。家で動画をみた。(N=18)は「思わない」100%だった。

<動画の授業内容>



「動画の内容が面白そうに思った」という項目は「とても思う」が 44.4%(8名)「あまり思わない」が 27.8%(5名)「あまり思わない」22.2%(4名)「思わない」5.6%(1名)だった。「動画の買い物の場面(ハンバーガーで買い物すること)は日常生活の中にある。」は「とても思う」61.1%(11名)「そう思う」16.7%(3名)「あまり思わない」16.7%(3名)「思わない」(5.6%) (1名)と回答した。「ハンバーガー屋でご飯を買うことはある。」は「とても思う」61.1%(11名)「そう思う」22.2%(4名)「あまり思わない」11.1%(2名)「思わない」5.6%(1名)と回答した。「英語を話せるようになりたい。」という項目は「とても思う」50.0%(9名)「そう思う」27.8%(5名)「あまり思わない」11.1%(2名)「思わない」11.1%(2名)と回答した。「英語で買い物をする様子がわかった」という項目は「とても思う」は33.3%(6名)「あまり思わない」は 55.6%(10名)「あまり思わない」は 5.6%(1名)「思わない」は 5.6%(1名)だった。